

6 月例会 「機青連の原点回帰」

6月30日 於 食事苑京阪

生田産機工業(株) 生田 泰宏

残念ながら6月例会に参加できませんでしたが、初代代表幹事の長島さんと壮年会員制という画期的な改革をされた川並さんのお話はいかがでしたか。あの例会を振り返り…東代表から数えて4代前の代表幹事であるのにいまだ、幹事現役で(東代表のよしみで…)若い仲間と共に肌が触れ合うくらい近い距離で勉強させていただいている幸せ者ではありますが、最近、「世代をつないで結んで、開く」という元代表幹事のお役目を怠っているなあと、感じていた矢先に開催された例会だったので、改めて機青連20年の連綿と続く「スピリット」の次世代への引渡しの大事をフロンティア初代長島氏、2世代の幕引きを演じられ新たなカーテンを開いた川並氏の話のまえに参加者それぞれが自分自身に置き換え、世代をつなぐ大事さ、(日本の伝統文化の本質はこういう意味と僕は信じていますが)を改めて感じ取ったのではないのでしょうか？

(株)セイワ工業 東 憲彦

この例会の目的はまさに「継承」だったと思っております。キセイレンは”長島さんが創業者””川並さんが二代目”と考えると、生田さんが言われる「世代をつなぐ大事さ」が私たち事業継承者にとって必要不可欠であると気付きますね。あとの、パネルディスカッションでも歴代メンバーが異口同音に「転機」を見つけたのが「機青連」でのヒント、出会いの中からと、おっしゃっていましたね。それに、「機青連応援団」代表…振興公社時代からの代表的存在の松田さん、森西さんや、松森さん、そこから石田さんや内田さんにしっかりとつながっているでしょう。(あっ、鈴木さんも)「転機」を見つけることの大切さですね「あの頃は…」と過去を懐かしむではなく、「あの時で…」と節目、分岐点があるのですよね。その時をいかに見つけられるかが必要ですよねその為にも「ゆとり」を作らなければと反省してます。先の長崎や神戸での子供による殺人事件や、小学生監禁、親殺し、子殺し、学校の先生による変態行為の病んだ日本の姿を連日目にしますが、多分根本は先に書いたように、家庭内では親が職場では経営者が学校では教師が世代をつないで「大事なこと」を伝えていく「責任」の放棄にあると思います。子孫に美田を残さず、ただ志(徳)を残すのみ。と、よく聞きますが、私は自分の両親から生命の尊さや志を身を持って教えてくれました。だから大事なことは「形で残すものではなく、こころを身をもって伝えるもの」と思っています。まったくその通りですね人間として「いきざま」を如何に残せるか？凄くプレッシャーを感じますが、ワクワクしてきますね「大事な事」をもう一度、考えようと思った例会だったと思います

